

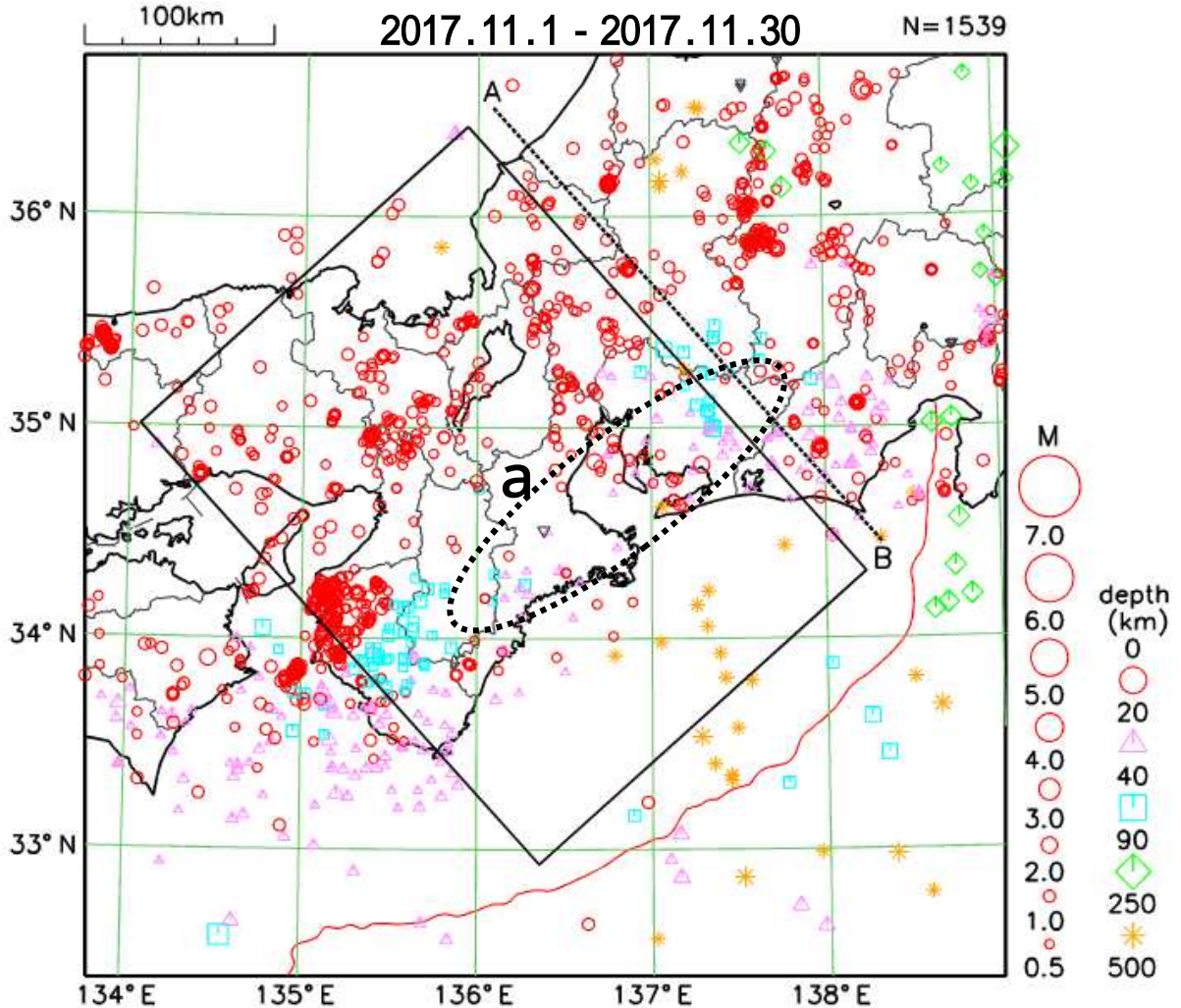
三重県の地震活動(平成29年11月)

平成29年12月7日
津地方気象台

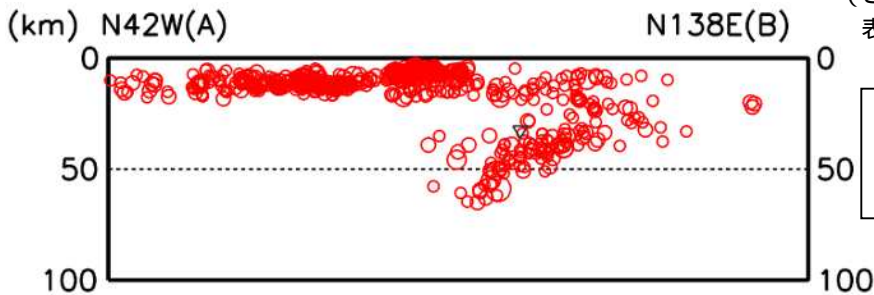
【概況】

今期間、三重県内で震度1以上を観測した地震はありませんでした。
なお、震央分布図中、aで示す領域(深さ約30~40km)で深部低周波地震を観測しました(詳しくは【深部低周波地震の観測状況】を参照)。

震央分布図



断面図



: 深部低周波地震
(この図では震源が精度良く求められたもののみ表示しています)

左の断面図は震央分布図の四角形内の震源を、A - Bに沿って置いた鉛直スクリーンに投影する形でプロットしたものです。

【過去1年間に三重県内で震度1以上を観測した地震の月別回数表】

平成28年	平成29年										
12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
2	0	0	1	1	2	4	0	0	2	0	0

【深部低周波地震の観測状況】

図1中の領域aでは11月15日以降、奈良県から愛知・長野県境付近を震央とする深部低周波地震(微動)を観測しました。11月15日に奈良県と三重県の県境付近で始まった深部低周波地震(微動)の活動領域は次第に北東へ移動し、伊勢湾まで広がりました。その後、25日夜からは愛知県で活動が見られ、活動域は次第に北東へ移動しています。30日以降は、活動は愛知・長野県境付近でも見られました。

深部低周波地震はその地震波形の特徴から震源を精度良く求めることが難しく、震源が震央分布図には表示されないことがあるため、実際はもっと数多く発生していると考えられます。

図1～図2では、震源の精度がやや劣る地震についても表示しています。

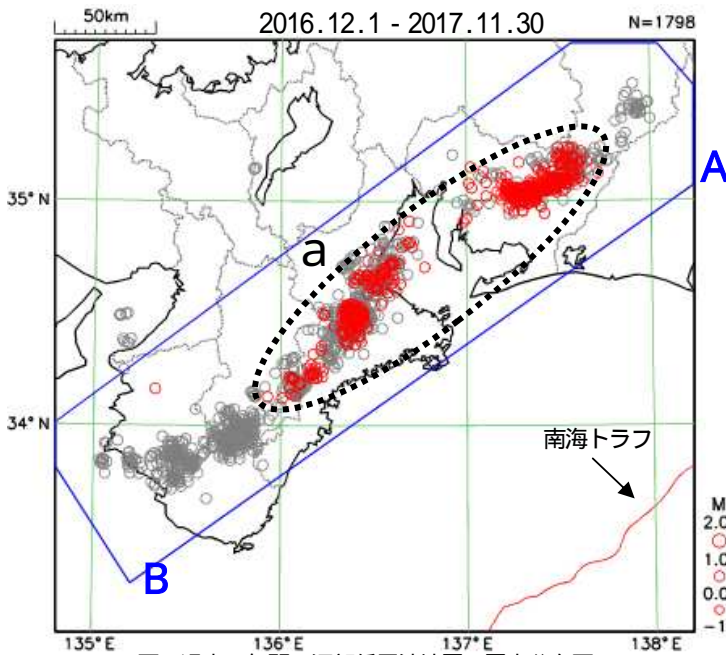


図1 過去1年間の深部低周波地震の震央分布図
(2016年12月1日～2017年11月30日、深さ0～60km)
2017年11月に発生した地震を赤色で表示しています。

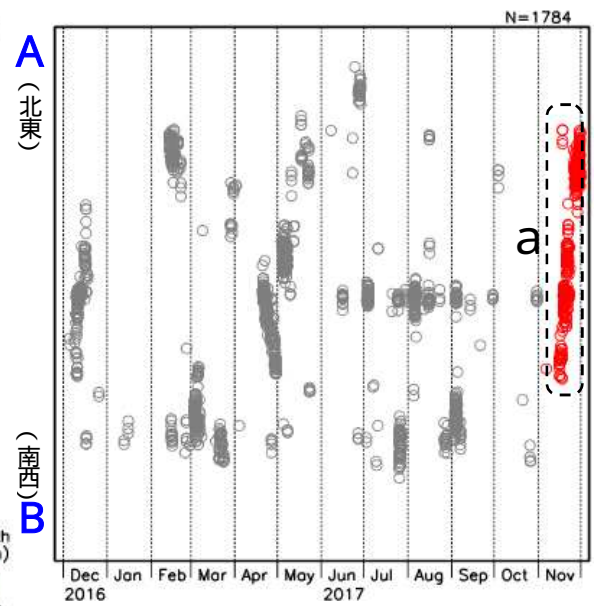


図2 過去1年間に発生した深部低周波地震の時空間分布図
縦軸：図1中のA Bを投影(概ね北東 南西方向)
横軸：期間(2016年12月1日～2017年11月30日)
2017年11月に発生した地震を赤色で表示しています。

【地震一口メモ】

《南海トラフ地震とは》

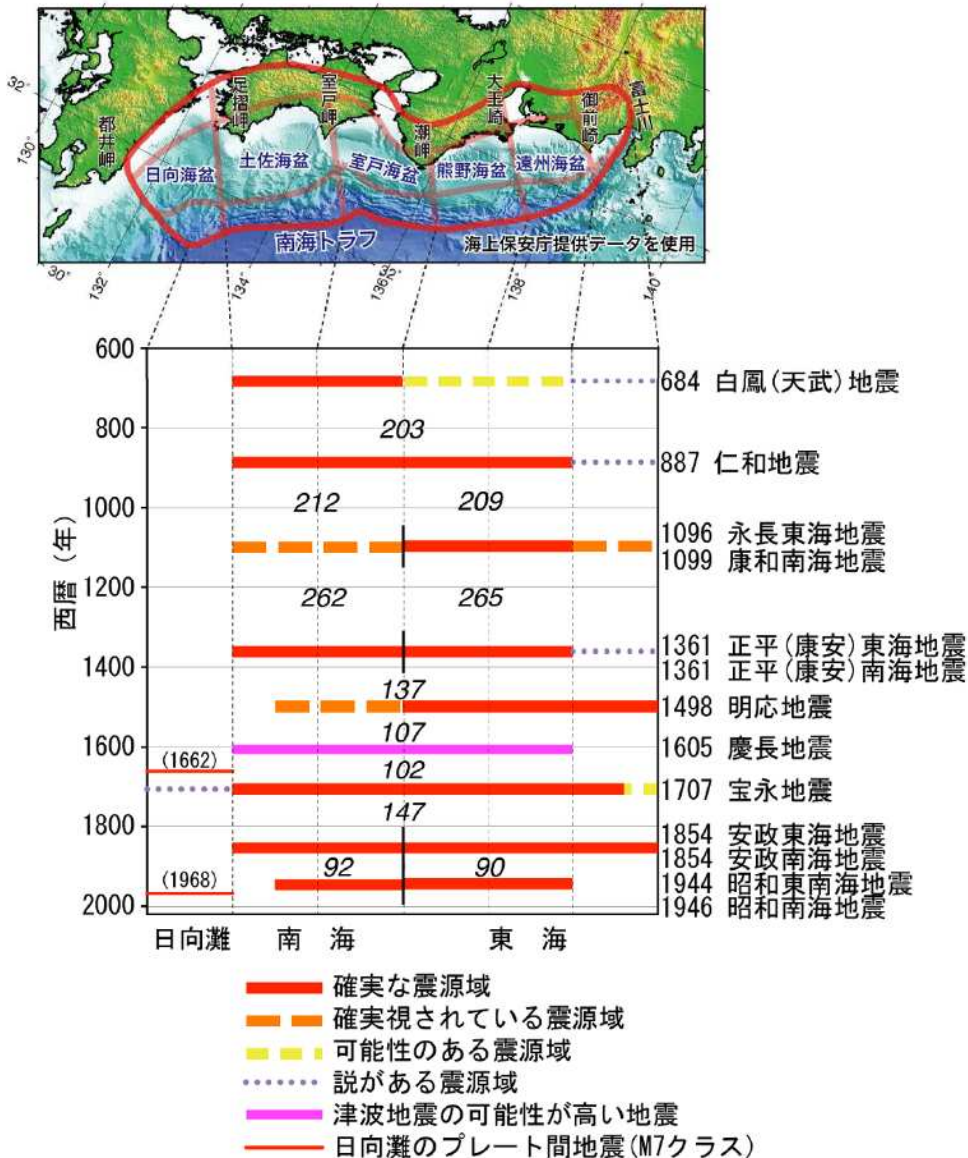
駿河湾から遠州灘、熊野灘、紀伊半島の南側の海域及び土佐湾を経て日向灘沖までのフィリピン海プレート及びユーラシアプレートが接する海底の溝状の地形を形成する区域を「南海トラフ」といいます。

この南海トラフ沿いのプレート境界を震源とする大規模な地震が「南海トラフ地震」です。南海トラフ地震は、おおむね 100～150 年間で繰り返し発生していますが、その発生間隔にはばらつきがあり、震源域の広がり方には多様性があることが知られています。

昭和東南海地震及び昭和南海地震が起きてから 70 年以上が経過しており、南海トラフにおける次の大規模地震の切迫性が高まっています。

南海トラフ地震について

<http://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/nteq/index.html>



南海トラフ沿いで過去に発生した大規模地震の震源域の時空間分布

「南海トラフの地震活動の長期評価(第二版)」(地震調査研究推進本部)

- ・本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点(河原、熊野座)、米国大学間地震学研究連合(IRIS)の観測点(台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東)のデータを用いて作成しています。
- ・資料は速報であり、後日の調査により変更されることがあります。
- ・資料についての問い合わせ先 津地方気象台 電話：059-228-6818
- ・この地震概況は津地方気象台ホームページの三重県の気象・地震概況内に過去3ヶ月分掲載されています。
アドレス：<http://www.jma-net.go.jp/tsu/gaikyo/651/gaikyo.html>